

ころころ遊び

柏みどり幼稚園（千葉県柏市）

[4歳児]

●大きな三角形ができた

“大きな坂道”というイメージで積み木をどんどん積み重ねる。だんだん大きくなっていく坂道を見て、一人で遊んでいた子ども自分が使っていた積み木をそこに積んで大きな三角形ができあがった。転がす物は自分で作った紙製のコロコロボール。

●遊んでいるうちに坂道も変化していく

できあがった坂道で、繰り返し遊ぶ。積み木をいろいろ動かしていき、余った積み木で坂の下にゲートを作る。“ゲートを通ったら勝ち”というゲームや坂の下に小さい積み木をピンとして5本立て、ボーリングのようなゲームを考える。



★ひとりの子が“大きな坂道”を作ろうとしていると、意図（坂道を作りたい）を共有した他の子どもも加わって、大きな三角形（坂道）を作り上げる。そして、遊びが始まっていく。まず、このように意図を共有し合うことから始まっていくことが、その後、友達と一緒に試行錯誤していくための前提になるのだと思う。

●何がよく転がるか、坂道の長さが違うとどうか

転がす物を工夫する。部屋にある小さな積み木やペットボトルのふたなどを集めてきて、次々に転がす。

- ・四角積み木・・・「何か、コロコロしてない」「滑ってない？」
- ・ペットボトルのふた・・・「途中でクルンってなって止まっちゃう」
- ・円柱の積み木・・・平面を下にすると「コロコロしてない」

丸い所を下にすると「速い!」「遠くまで行く」

そこで円柱の積み木を使うことにした。また「何で速くて遠くまで行くんだろう？」という保育者の問いかけに、「坂道が長いから」と子どもたち。「じゃあ、短いとどうなるの？」に対して「あんまり転がらないんじゃないかな?」「ちょっとは転がるだろうけど・・・」と予想する。実際に比べてみると、速さに違いはあっても距離的にはさほど変わらなかった。

- ・子どもたちがわかったこと・・・長い坂の方が速くて、よく転がる



★ここで子どもたちは一つ一つ転がして比較することを体験した。この遊びにかかわる子どもたちが、みんなで共通に実験方法を知ることができた。“円柱が速く転がる”ことを知り、「坂道が長いから速い」を確かめる実験によって“長い坂の方が速くて、よく転がる”ことがみんなの共通認識になる。

●段ボールで遊び始める

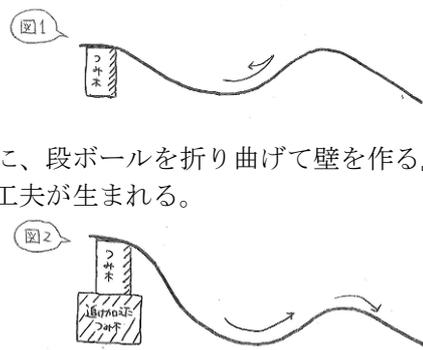
段ボールを大きく広げ遊び始める。端と端を二人で持つと、段ボールの折り目の部分が山や谷になっている。いろいろな形にコースを変えて遊ぶことができそうなことに気付く。周りに呼びかけながら段ボールの形を変えていき、図1のようなコースができる。

●上り坂が越えられない!

とても勢いよく転がるが上り坂がなかなか越えられず、谷を行ったり来たり…。何度も転がして遊ぶ中で、『コースアウトしないように、段ボールを折り曲げて壁を作る』『スタート部分に箱積み木で台を作る』などの工夫が生まれる。

●上り坂を越えることができた!!

何度やっても越えられない上り坂。力任せにやってみるがうまくいかず膠着状態。一呼吸おいて、どうしたらよいか考えを出し合うことにした。試してみてもわかったことを確認した末に、スタート部分の台をもう一段高くして坂を急にしてみると、「できた～!!」「上ったあ～!」。(図2) やっと上り坂を越えることができ、みんなで喜び合う。



★子どもたちの共通の認識になっていた“長い方が速くてよく転がる”について試してみてもわかったことを基に、また試してみるという取り組みの結果として、上り坂を越えられたという体験はとても大きかったと思う。何か思いつくととりあえず試してみようとする姿が、この後いろいろな場面に出てくるようになった。

みどころ

転がす遊びにもそれぞれの子どもたちのいろいろな気付きがあって、繰り返し遊ぶうちに少しずつ遊び方が変化していく様子がわかります。保育者はその取り組みの過程を見守り、逐次考察することで子どもの創意工夫していく姿を支えています。予測したり、比較したり、確かめて実感したりすることで、子どもの「科学する心」が膨らんでいきます。